

# 福祉生活病院常任委員会資料

(平成27年10月7日)

[件 名]

- 1 第2回温泉ライダーin三朝温泉の開催について  
(環境立県推進課)・・・1
- 2 第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウムの開催結果について  
(緑豊かな自然課)・・・2
- 3 「鳥取県地域安全フォーラム2015」の開催について  
(くらしの安心推進課)・・・4
- 4 第47回鳥取県交通安全県民大会の開催について  
(くらしの安心推進課)・・・5

生活環境部



## 第2回温泉ライダーin三朝温泉の開催について

平成27年10月7日  
環境立県推進課

モーダルシフト（交通手段の転換）を推進して、低炭素社会の実現に向けた社会システムの転換を図るための取組の一つとして、平成25年に「鳥取県バイシクルタウン構想」を策定し、通勤や買物での自転車利用及びレクリエーションとしての自転車利用等を推進しているところである。

本構想の実現に向け、自転車好きを増やすために、子どもから大人まで楽しめる自転車イベント「温泉ライダー」を、平成26年度に引き続き開催する。

1 開催日 平成27年10月31日（土）受付・前日イベント  
11月1日（日）サイクルエンデューロ（自転車耐久レース）

2 場 所 三朝町大瀬区（メイン会場：三朝町役場）

### 3 内 容

- 2.4kmの公道を完全封鎖した周回コースを4時間で何周できるか競う耐久レース（ロードバイクからママチャリまで車種自由で参加可能）
- 子ども向け自転車教室の開催やグルメブースによる地域食材の提供なども行い、地元と一体となった自転車イベントとして実施する。

（10月31日）・子ども向け自転車教室

- ・自転車試乗会、じゃんけん大会・抽選会
- ・三朝町地元グルメブース、三朝温泉足湯サービス など

（11月1日）・サイクルエンデューロ（自転車耐久レース）、表彰式

- ・ゲストによる自転車トークイベント、自転車試乗会、じゃんけん大会・抽選会
- ・三朝町地元グルメブース、三朝温泉足湯サービス など

4 ゲスト 安田大サーカス団長 安田裕己氏、NPO法人自転車活用研究会理事長 小林成基氏、自転車カリスマツーキニスト 疋田智氏、サイクルライフナビゲーター 絹代氏 ほか

5 主 催 温泉ライダーin三朝温泉実行委員会

（構成団体）三朝温泉旅館協同組合、三朝温泉観光協会、三朝町商工会、大瀬区、鳥取県自転車軽自動車商協同組合、日本海ケーブルネットワーク株式会社、一般社団法人ウィズスポ、三朝町、鳥取県

### <参考>昨年度の実施概要

○子ども向け自転車教室（平成26年11月22日）

【参加者数】103人（定員：100人）

【来場者数】370人（子どもを除く）

○サイクルエンデューロ（平成26年11月23日）

【参加者数】155組 491人

【参加者居住地】県内 74組、県外 81組

【部門】スポーツサイクル 128組（377人）

ママチャリ 27組（114人）

【来場者数】3,060人



子ども向け自転車教室



サイクルエンデューロ



地元グルメブース

第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウムの開催結果について

平成27年10月7日  
緑豊かな自然課  
観光戦略課

第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク（APGN）山陰海岸シンポジウムの開催結果について、下記のとおり報告する。

記

- 1 会期 平成27年9月15日（火）～20日（日）  
2 場所 京丹後市（京都府）、豊岡市・香美町・新温泉町（兵庫県）、鳥取市・岩美町（鳥取県）  
3 テーマ ジオパークネットワークと人々の暮らし〔Geoparks : Networking and Society〕  
4 参加者数 ジオパーク関係者等 618人（うち海外366人）  
※海外参加者の出身国（21カ国）  
中国、香港、台湾、韓国、ベトナム、マレーシア、インドネシア、タイ、イラン、フランス、ドイツ、ギリシャ、イギリス、スペイン、トルコ、ノルウェー、スロベニア、オーストラリア、ウルグアイ、ケニア、エジプト。

5 主な日程

日にち	開催地	開催概要
日本ジオパークネットワーク		
15日（火）	京丹後市	ガイドフォーラム等
16日（水）		
アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム		
17日（木）	豊岡市	開会式/基調講演（一般公開）、分科会、ポスターセッション、ウェルカムパーティー（まちバル）
18日（金）	豊岡市等	開会中ツアー
	鳥取市	【鳥取県関連事業】ジオパーク大交流会
19日（土）	鳥取市	全体会議/基調講演（一般公開）、分科会、ポスターセッション、フェアウェルパーティー、【鳥取県関連事業】ジオパーク科学実験教室、一般向けジオパーク講座等
20日（日）	鳥取市等	閉会后ツアー（オプション）

6 開催結果

○国内外からジオパーク関係者等618人の参加があり、ツアーや市民との交流イベント等を通じ、山陰海岸ジオパークの魅力をPRできた。

【参加者の主な声】

- ・今回の大会では、多くの市民と交流でき、山陰海岸の文化、歴史に触れることができ、非常によかった。（ギリシャ ジオパーク関係者）
- ・神鍋高原や鳥取砂丘、浦富海岸などのジオサイトで、観光活用や教育活用の取組が行われており、参考になった。（韓国 ジオパーク関係者）
- ・ツアーの際に、多くの民間ガイドが対応するなど、地域の多くの人がジオパーク活動に関わっていることに感心した。（マレーシア ジオパーク関係者）

○アポイ岳（北海道）をはじめ9地域が世界ジオパークの新規認定、室戸（高知県）をはじめ23地域の再認定が発表され、これにより世界ジオパークは33か国120地域となった。

【世界ジオパークの内訳】

ヨーロッパ	23か国69地域	アフリカ	1か国 1地域
北アメリカ	1か国 2地域	アジア	6か国46地域
南アメリカ	2か国 2地域		（うち日本 8地域）

○基調講演、分科会等で活発な議論が行われ、今後のジオパーク活動の指針として山陰海岸宣言がまとめられ、発表された。

（山陰海岸宣言は、別紙のとおり）

○本県が主催したジオパーク講座、ジオパーク科学実験教室、さかなクントークショー等にも、多くの一般市民の参加があり、ジオパークに関する知識や興味、関心を高めることができた。

7 今後の取組

今回のAPGN山陰海岸シンポジウム開催により、国内外のジオパーク関係者に山陰海岸ジオパークを認識していただいた。この成果を踏まえ、国内外のジオパークと連携しながら、山陰海岸ジオパークが世界のジオパークの模範となるようブラッシュアップを図る。

(別紙)

## 山陰海岸宣言

ランカウイ宣言、ハノイ宣言、濟州島宣言を受けて、第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウムは、2015年9月17日から19日までここ日本の山陰海岸ジオパークで開催され、22カ国から618人の関係者が出席した。その審議後、以下を宣言する。

### 1. 世界ジオパークの領域において地球規模で考え地域で行動する

大地の遺産はダイナミックな地球の貴重な天然資源であり、地域の視点から我々の地球を明確に理解する基盤を与えてくれる。世界ジオパークは、国際的に重要な大地の遺産を有する地域であるが、そこを訪れる人が地域社会の活動を通じて自然と人間の関係や地球の価値を得ることができる場所である。世界ジオパークネットワーク (GGN) とアジア太平洋ジオパークネットワーク (APGN) の加盟地域は、その地域の価値やその世界的な重要性について、人々が誇りを持てるようにしながら、地域社会からの活動を基にした大地の遺産の保全と持続可能な経済開発を促進する。

### 2. 地域の文化と歴史に関連した地質多様性の認識

地域の文化や歴史はしばしばその地域の地質多様性によって形成されてきた。その関係を認識することは、自然保護と持続可能な経済開発を可能にする重要な視点の一つである。世界ジオパークは、大地の遺産とその地域の自然・文化・無形遺産との関係を調査・開発し称賛する。世界ジオパークの活動は、我々のダイナミックな地球において、社会に向けられている主要な問題への気付きを促進させる。

### 3. 自然災害への意識と災害低減への教育の認識

地震・火山噴火・津波・河川氾濫や地すべりといった様々な自然災害は、世界の多くの地域でしばしば起こる。地域社会にとって、これらの自然災害に関わる地質特性を明確にすることは重要である。世界ジオパークは、大地の遺産と地域社会の文化・歴史を通じて自然災害を防ぐ教育が地域の人々になされることを促進し、奨励する。

### 4. ネットワーキングを通じた世界ジオパーク活動

連携と協力を通じて人材能力を強化するために、GGN 加盟地域間でのネットワーキングを促す。GGN、APGN、そして各国のジオパーク加盟地域は、地域社会から世界的な連携まで様々なレベルでのネットワークを構築し、地域の再活性化とともに大地の遺産の保全を行う。アジア太平洋地域には、多くの民族や文化が存在する。この地域において効果的に各々のジオパークを運営するために、協力と相互理解は何より大切である。APGN は、GGN の進展に合わせて、アジア太平洋地域のGGN 加盟の広域ジオパークネットワークとして機能しつづける。APGN は人材と情報の相互交流の強化も促進する。

### 5. 次世代のための世界ジオパーク

多くの国で大きな都市を持たない地域では、人口減少、高齢化社会や自然災害のリスクなどの共通した問題がみられる。自分の地域に対して誇りを持った若い世代の関わりが、それらの地域の再活性化や自然災害低減には必要である。世界ジオパークは、若い世代に対して、自然と地域の文化・歴史との関係についての理解や地球のよりよい理解を通じた自然災害低減についての教育を奨励する。

### 6. 第38回ユネスコ総会でのユネスコ世界ジオパーク設立に向けて

APGN は「地球科学とジオパークの国際プログラム」(IGGP) が2015年11月の第38回ユネスコ総会において承認されることを強く期待している。自然保護、持続可能な地域開発そして地域社会の教育を含む世界ジオパークの活動は、このユネスコの新しいプログラムによって、より強化され拡大されるであろう。

山陰海岸ジオパークにて合意

2015年9月19日

## 「鳥取県地域安全フォーラム2015」の開催について

平成27年10月7日  
警察本部  
(生活安全部生活安全企画課)  
くらしの安心推進課

10月11日(日)から20日(火)までの間、「全国地域安全運動」が実施され、その一環として、鳥取県では、県民の自主防犯意識の高揚と「犯罪のないまちづくり」の推進を目的に「鳥取県地域安全フォーラム2015」を開催する。

### 1 開催日時・場所

10月14日(水)午後0時30分から午後3時10分までの間  
鳥取市尚徳町101番地5 とりぎん文化会館小ホール

### 2 参加予定者

約450人

### 3 主催・共催

主催：公益社団法人鳥取県防犯連合会  
共催：鳥取県警察・鳥取県

### 4 開催内容

- (1) 鳥取県警察音楽隊演奏
- (2) 特殊詐欺絶無に向けた共同宣言
- (3) 挨拶
- (4) 表彰

防犯功労者及び防犯功労団体等の表彰

- (5) 園児による防犯メッセージ
- (6) 講演

【講師】

カギの110番株式会社エリアマネージャー  
島田 竜也 氏

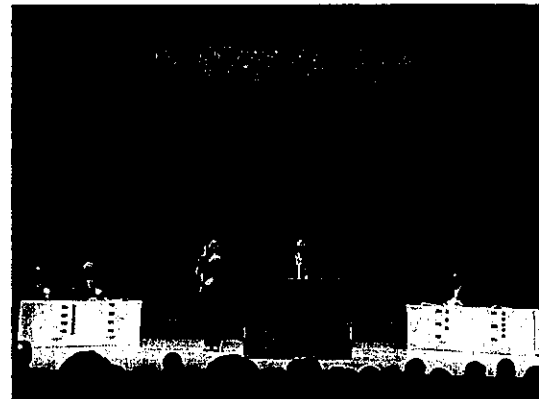
【演題】

「目からウロコの防犯対策」

～安全安心なまちづくりのために知っておくべき防犯～



(講師 島田竜也氏)



(昨年の開催状況)

### 5 防犯建物部品展示

ハウスメーカーにより、防犯性能の高い建物部品の展示を行う。

## 第47回鳥取県交通安全県民大会の開催について

平成27年10月7日  
くらしの安心推進課

県内の交通安全功労者及び優良運転者の表彰を行うとともに、交通安全に関する講演等を行うことにより、県民の交通安全意識の更なる高揚を図り、交通事故を防止することを目的として、次のとおり開催する。

高齢者の交通死亡事故が多発していることから、今大会では特に、講演及び各種展示体験を通じて、高齢者の交通事故防止について啓発を行う。

### 1 開催日時・場所

平成27年11月10日（火）正午から午後3時30分まで  
とりぎん文化会館（鳥取市尚徳町101番地5）

### 2 参加予定者

約400人（表彰受賞者・団体及び県民の皆様）  
※老人クラブ等に対して参加の呼びかけを行っている

### 3 主催・共催

主催：鳥取県交通対策協議会（会長 鳥取県知事 平井伸治）  
共催：鳥取県、鳥取県警察、一般財団法人鳥取県交通安全協会

### 4 開催内容

#### (1) 式典（場所 小ホール）

- ・交通事故犠牲者に対する黙とう
- ・主催者挨拶
- ・交通安全功労者表彰
- ・来賓祝辞
- ・幼稚園児による「交通安全メッセージ」発表
- ・講演  
講師 漫才師 <sup>はやしや</sup>林家ライス・カレー子 氏  
演題 「交通安全 ルールとマナーは幸せの素」



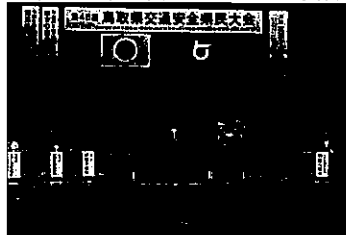
【講師 林家ライス・カレー子】

- ・大会決議  
高齢者と子どもへの思いやり運転の実践、前照灯の早期点灯とハイビームの活用、チャイルドシートの使用、自転車の安全利用、飲酒運転の根絶等を決議

#### (2) 各種展示・体験（場所 フリースペース等）

- ・白バイ、パトカー展示
- ・自転車運転シミュレーターによる自転車ルール・マナーの学習
- ・シニアカーの試乗展示
- ・交通安全「ツルカメ音頭」の披露
- ・シートベルト着用体験車によるシートベルト効果体験
- ・交通安全教育車による安全運転適正診断
- ・反射材用品等の展示、販売
- ・交通事故相談所相談員による出張相談

（参考）昨年の開催状況 ～平成26年11月12日（水）米子市文化ホール（米子市）～



【式典】



【講演（落語家 <sup>さんゆつていはくちよう</sup>三遊亭白鳥 氏）】



【展示・体験コーナー】

